

研究テーマ	環境・安全と経済を考える	担当者名	伊藤 康
担当科目	環境経済学Ⅰ・Ⅱ、公共政策、統計学	募集人数	14名
先修科目	研究ⅠA・B 研究ⅡA・B 卒業研究A・B	・・・	研究基礎A・B 研究ⅠA・B 研究ⅡA・B
講義内容	<p>環境を破壊するような経済活動が何故行われるのか、何故十分な防災対策が行われないのか、どうすれば環境保全・安心確保と経済発展を両立させることができるのかといったことを、様々な環境問題・災害の事例（特に東日本大震災、東京電力福島第一原発事故の事例）を検討することを通じて考えていきます。更に、東北の復興のために何が必要か、といったことまで考えていければと思っています。それらの準備として研究Ⅰの春学期には、様々な資料から環境に関連するコストを自分で試算する、という作業を行います。</p>		
講義の到達目標	<p>環境破壊は、社会に見えない形でコストを負担させていることを理解する。 人前で論理立てて話をすることができるようになる。</p>		
準備学習等の指示	<p>興味を持ったニュースがあれば、自分なりに調べてみてください。</p>		
研究の概要・授業計画	<p>【研究ⅠA・B】</p> <p>企業や消費者が色々な意思決定を行うとき、「コスト」が重要な要素となります。例えば、原子力発電が普及したのは、他の発電方法と比べてコストが安いからと言われていますが、本当に原発のコストは安いのでしょうか？春学期には、皆さんに企業の有価証券報告書や他の資料から、（例えば）原発のコスト（企業にとってのコスト+社会に負担させているコスト）がどれくらいか実際に試算をしてもらい、本当にコストが安いかどうか、確かめてもらいます（あくまでも原発は例の1つの例なので、試算してみたいことがあれば、どんどん提案してください）。秋学期は、グループごとに興味がある環境・安全問題について調査&発表し、それについてみんなで議論をすることが中心となります。</p> <p>【研究ⅡA・B】</p> <p>春学期は、研究Ⅰの秋学期と同様のスタイルでゼミを進めていきます。秋学期は、ある程度卒論を意識して、個人ごとに興味ある分野に関する調査と発表を中心にする予定です。これは就職活動を控えた3年生に、人前できちんと受け答えをする訓練をしてもらうという意味もあります。ただし、グループ活動を希望する人が多ければ変更する可能性はあります。</p> <p>【卒業研究A・B】</p> <p>1年かけて卒論を書き上げるために、ひたすら個人報告を行っていただきます。学生時代の集大成ですから、それなりの覚悟をして臨んで下さい。</p>		
評価方法	<p>毎回の出席と議論への参加、課題の提出状況等を総合的に判断します。</p>		
履修上の注意	<p>環境・安全と経済の問題を真剣に考えてみたいと思っているなら、特別な知識は前提としません。伊藤担当の環境経済学は、なるべく履修してください。受講を希望する人は必ず事前に y2ito@cuc.ac.jp に連絡するか、研究室を訪ねてください。</p>		
教科書			
参考文献	<p>大島堅一『原発のコスト』岩波新書、2011年。他、適宜、紹介します。</p>		